

いのちをまもるPARTNERS
医療安全全国共同行動

医療安全全国共同行動 “いのちをまもるパートナーズ”に ぜひご参加ください!

医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”とは？

患者さんの安全を守り、患者さんと医療者がともに安心して治療やケアに専念できる医療環境づくりを促進するために、日本の医療を支える全国の医療機関・医療従事者・医療団体が、施設や職種、専門の壁を超えて、力を合わせて安全目標の実現をめざす、医療界初の共同事業です。医療安全全国共同行動は2008年に発足し、その活動をさらに推進し、継続発展させるため、2013年に「一般社団法人 医療安全全国共同行動」が設立されました。

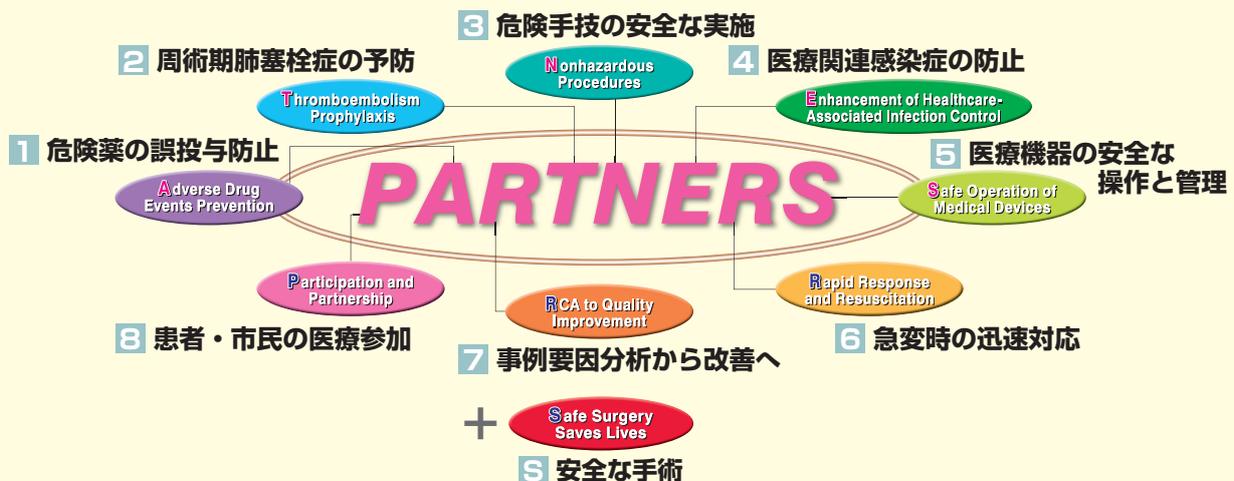
(一社) 医療安全全国共同行動の設立呼びかけ団体

医療の質・安全学会 日本医師会 日本歯科医師会 日本看護協会 日本薬剤師会 日本臨床工学技士会

医療安全全国共同行動の活動

1. 医療事故をなくすための組織的な改善活動
2. 病院の取り組みに対する技術的支援
3. 地域での医療安全活動の交流・普及
4. 改善に取り組む病院を広げる活動
5. 見える化 [達成指標・H S M R (標準化病院死亡比)・対策の浸透度]

医療安全に取り組むための行動目標を掲げています



2008年、医療安全全国共同行動の発足にあたって、医療の現場で“避けることのできる死”を少しでも減らすために、“今すぐにでもできるのに、できていないこと”が8つの行動目標として取り上げられました。2012年には手術室チェックリストの有効性が実証されたことなどから、「行動目標S：安全な手術－WHO指針の実践」が加わりました。

もっと安全な医療のために！ 9つの行動目標

全国の参加登録施設が9つの中から選んだ行動目標に取り組んでいます

各目標ごとに目標実現のための「支援ツール」をHPから提供しています。ぜひご活用ください！HPのメニュー「9つの行動目標・推奨する対策」(http://kyodokodo.jp/index_b.html)に収録されています。

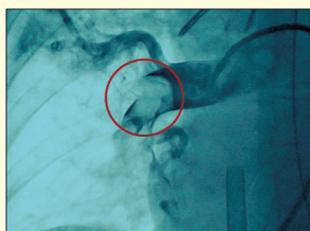


行動目標 1 危険薬の誤投与防止

[目標] 危険薬の誤投与に起因する死亡を防止する

[推奨する対策]

1. 危険薬の啓発と危険薬リストの作成・周知
2. 高濃度カリウム塩注射剤、高張塩化ナトリウム注射剤の病棟保管の廃止
3. 入院時持参薬の安全管理
4. 抗がん剤治療プロトコルの院内登録制度
5. 「危険薬の誤投与防止ベストプラクティス16(NDP)」の実施(チャレンジ)



行動目標 2 周術期肺塞栓症の予防

[目標] 周術期肺塞栓症による死亡を防ぐ

[推奨する対策]

1. 適正予防策選択のための総合的評価の実施
2. 予防策の確実な実施と安全管理
3. 肺塞栓予防の重要性に関する職員教育の徹底
4. 患者への説明と患者参加の促進
5. ハイリスク患者へのスクリーニング検査の実施(チャレンジ)
6. 肺塞栓症の早期診断・治療マニュアルの作成(チャレンジ)
7. 予防的抗凝固療法の安全管理(チャレンジ)



行動目標 3 危険手技の安全な実施

(a) 経鼻栄養チューブ挿入時の位置確認の徹底

[目標] 経鼻栄養チューブの挿入留置手技に伴う有害事象とこれに起因する死亡を防ぐ

[推奨する対策]

1. 経鼻栄養チューブの挿入と位置確認のためのマニュアルの策定及び順守
2. 空気聴診法を位置確認の確定判断基準にしない
3. 初回挿入留置時はX線撮影で位置確認を行う
4. pH測定による補強確認を励行する(チャレンジ)

(b) 中心静脈カテーテル穿刺挿入手技に関する安全指針の順守

[目標] 中心静脈カテーテルの穿刺挿入手技に伴う有害事象とこれに起因する死亡を防ぐ

[推奨する対策]

1. TPNとCVC留置適応の厳格化
2. 安全な穿刺手技等の標準化
3. 安全手技の教育体制の構築(チャレンジ)



行動目標 4 医療関連感染症の防止

[目標] 医療行為が関わる感染症死亡を防ぐ

[推奨する対策]

1. 手指衛生*の徹底
 2. 標準予防策・接触感染予防策の強化
 3. 環境と器具の清浄化
- *WHO "Clean Hands" Campaign



行動目標 5 医療機器の安全な操作と管理

(a) 輸液ポンプ・シリンジポンプの安全管理

[目標] 輸液ポンプ・シリンジポンプが関わる有害事象とこれに起因する死亡を防ぐ

[推奨する対策]

1. 輸液ポンプ・シリンジポンプの保守点検の確実な実施
2. 操作者マニュアルの作成と教育の徹底
3. 操作者用チェックリストの作成と適正な運用
4. 機種の一統(チャレンジ)
5. 院内認定制度の確立(チャレンジ)



(b) 人工呼吸器の安全管理

[目標] 人工呼吸器が関わる有害事象とこれに起因する死亡を防ぐ

[推奨する対策]

1. 人工呼吸器の保守点検（日常・定期点検）の確実な実施
2. 人工呼吸器動作確認チェック表の作成と運用
3. 生体情報モニタを必ず装着する
4. 警報対応態勢の確立（チャレンジ）
5. 人工呼吸器関連肺炎（VAP）の予防（チャレンジ）



行動目標 6 急変時の迅速対応

[目標] 医療行為に伴う院内急変事例の死亡を防ぐ

[推奨する対策]

1. 有害事象に対する緊急対応手技の浸透
2. 心肺蘇生法の職員教育の徹底
3. 院内救急計画の策定と体制づくり
4. 容態変化への早期対応態勢（RRS）の確立（チャレンジ）



行動目標 7 事例要因分析から改善へ

[目標] 有害事象や死亡事例の要因分析に基づくシステムの改善

[推奨する対策]

1. 事例要因分析の手法の周知と職場での実施
2. 事例要因分析で明らかになった課題に関する改善活動の実施
3. M & Mカンファレンス（Morbidity & Mortality Conference）のプログラム化（チャレンジ）



行動目標 8 患者・市民の医療参加

[目標] 患者・市民と医療者のパートナーシップを通じてケアの質・安全と相互信頼を向上させる

[活動] 1. 患者さんや地域の市民が参加・参画して医療の質・安全を向上させる活動を新規に実施する。 2. 活動の成功体験や教訓を共同行動HPから紹介する。

■ 支援ツールを用意している参考モデル (a) 「安全は名まえから」(患者と医療者の

協働によるフルネーム確認) (b) 「からだと病気を知るために」(院内患者図書室の設立) (c) 「転ばぬ先に」(患者参加の転倒転落防止) (d) 「3つのポンプを働かせよう」(仮) (患者参加による周術期肺塞栓症の予防) (e) 「1冊にまとめて安心お薬手帳」(お薬手帳による処方と与薬の安全管理)



行動目標 S 安全な手術－WHO指針の実践

[推奨する対策]

1. 正しい患者の正しい部位を手術する
2. チームは、患者を疼痛から守りながら、麻酔薬の投与による有害事象を防ぐことが分かっている方法を用いる
3. 命にかかわる気道確保困難もしくは呼吸機能喪失を認識し適切に準備する
4. 大量出血のリスクを認識し適切に準備する
5. 患者が重大なリスクを持っていると分かっているアレルギーあるいは薬剤副作用を誘発することを避ける
6. 手術部位感染のリスクを最小にすることが分かっている方法を一貫して用いる
7. 手術創内に器具やガーゼ（スポンジ）の不注意な遺残を防ぐ
8. 全ての手術標本を確保し、きちんと確認する
9. 効果的にコミュニケーションを行い、手術の安全な実施のために極めて重要な情報をやりとりする
10. 病院と公衆衛生システムは、手術許容量、手術件数と転帰の日常的サーベイランスを確立する

◆2015年度は新しく10番目の行動目標Wが加わります

行動目標 W 医療従事者を健康被害からまもる

近年、医療従事者が抗がん剤に曝露されている可能性についての懸念が高まり、また、従来から医療従事者がケアの現場でさまざまな感染性病原体に曝露され、時に、罹患・発症している事例が少なからず報告されていることから、このたび「行動目標W：医療従事者を健康被害からまもる」を追加することとなりました。具体的には、当面、以下を取り上げます。

- 抗がん剤曝露のない職場環境を実現する
- 感染症の拡散を防止する院内手順を遵守する

安全目標の達成に向けて支援しています

医療安全全国共同行動では100名を超える多職種・多分野の専門家の方々がボランティアで支援活動に従事、目標別のセミナーやワークショップ、さらにホームページを通じて医療安全に取り組む医療機関を支援しています。

●目標別のセミナーやワークショップを開催しています

ホームページから開催報告がご覧になれます

HP <http://partners.kyodokodo.jp/info/report> 【フォーラム/セミナーの報告】



2009年 5月
支援セミナー「急変時の迅速対応」



2009年11月
全国フォーラム分科会「事例分析から改善へ」



2010年 5月
実技講習会「経鼻栄養チューブの留置手技」



2011年 6月
「輸液・シリンジポンプ医療安全プログラム」



2012年 4月
ワークショップ「人工呼吸器下のケア」



2014年 6月
キックオフセミナー 機器展示

●講師を派遣します

院内研修など、目的に応じて共同行動より専門の講師を紹介・派遣いたします

●ホームページから各種支援・情報を提供しています

【支援ツール】

HP http://kyodokodo.jp/index_b.html 【9つの行動目標と推奨対策】

行動目標を実現するために開発された支援ツールとして、目標別に「ハウツーガイド」(詳細解説と推奨対策マニュアル)と「ツール」(取り組みを支援するツール)を提供、どなたでも無料でダウンロードしてご利用いただけます(簡単な閲覧登録をお願いしています)

目標	ハウツーガイド	ツール
9目標共通		TOOL BOX
行動目標1 危険薬の誤投与防止	ハウツーガイド	TOOL BOX
行動目標2 周術期肺塞栓症の予防	ハウツーガイド	TOOL BOX
行動目標3 危険手技の安全な実施		
a) 経鼻栄養チューブ	ハウツーガイド	TOOL BOX
b) 中心静脈カテーテル	ハウツーガイド	TOOL BOX
行動目標4 医療関連感染症の防止	ハウツーガイド	TOOL BOX
行動目標5 医療機器の安全な操作と管理		
a) 輸液ポンプ・シリンジポンプ	ハウツーガイド	TOOL BOX
b) 人工呼吸器	ハウツーガイド	TOOL BOX
行動目標6 急変時の迅速対応	ハウツーガイド	TOOL BOX
行動目標7 事例要因分析から改善へ	ハウツーガイド	TOOL BOX
行動目標8 患者・市民の医療参加	ハウツーガイド	TOOL BOX
行動目標9 安全な手術-WHO指針の実践		TOOL BOX
☆診療所の安全対策		TOOL BOX



危険薬シール

目標1「危険薬の誤投与防止」支援ツール



目標8「患者・市民の医療参加」支援ツール

支援ツール一覧

[ひとことアドバイス]

HP <http://partners.kyodokodo.jp/info/guidance> 【相談室】

医療現場のスタッフの方々に向けた目標別アドバイス

WHO手術安全チェックリスト導入のすすめ (目標S)

行動目標S 支援チーム 西脇公俊 (名古屋大学医学部麻酔科)



みなさんこんにちは。行動目標S「安全な手術-WHO指針の実践」支援チームの西脇 (名古屋大学医学部麻酔科) です。行動目標SではWHO安全な手術のためのガイドライン2009の実践が手術安全につながるかと考え、その啓蒙・実施に主眼を置いております。

ガイドラインには10の目標が挙げられており、そのうち9の目標はWHO手術安全チェックリストの実施によって達成されます。当施設では4年前からチェックリストを取り入れていますが、若手医師はたいへん仕事がやりやすくなったと感じています。アメリカの病院からはナースの離職率も減ったと報告されています。今年の国立大学病院間相互チェックでは、WHOチェックリストがその通りに使われているかどうかを調査し、その使用は国立病院の標準として求められる時代になってきました。

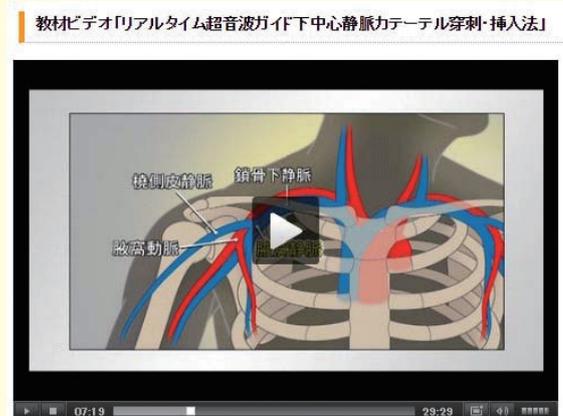
チェックリストは、手術チームのコミュニケーションを推進しチームのメンバーにも良い影響を与えます。その効用についてはアトチュール・ガワデの『アナタはなぜチェックリストを使わないのか?』(晋遊舎刊)によく書いてあります。もしチェックリスト導入に積極的でない方が導入の障害になっているようなら、この本の紹介は有効です。また、チェックリストの使用は、緊急手術などでその威力を十分発揮できるという例として、動画http://www.youtube.com/watch?v=UShYPr_cI5cなどを参考していただくと、何を目標としているかが理解されやすいと思います。医療安全全国共同行動のホームページにさまざまなツールがのせてありますので、それらも利用していただけましたら幸いです。

導入後は定期的にアンケートなどとして、チェックリスト導入の効果を実際に確認してモチベーションを維持していくことも重要です。それによってそこで働く人々が気持ちよくやる気を持って仕事に励める状況となり、結果的に手術安全も向上していることを実感できると思います。

目標S 「手術安全」ひとことアドバイス

[教材ビデオ]

HP http://kyodokodo.jp/index_b.html



目標3b 「危険手技の安全な実施 (中心静脈カテーテル)」
教材ビデオ (短縮版)

[病院の活動紹介]

HP <http://partners.kyodokodo.jp/info/action/#anchor2> 【パートナーズの活動】

9目標に関する改善事例や取り組み事例を目標別に紹介

成功シナリオの実施

病棟説明会の実施 (シナリオQ)

外科系病棟、手術室で説明会実施



複数回実施しました

- ・ テンプレート内容
- ・ 診療報酬算定方法等

益田地域医療センター-医師会病院 藤川ひづる 提供

目標2 「周術期肺塞栓症の予防」活動紹介

新入職員および全ての中途採用者に対する手指衛生の技術指導



介護福祉士 看護師 療法士

NTT東日本伊豆病院 塩田美佐代 提供

目標4 「医療関連感染症の防止」活動紹介

[海外の医療安全活動の動向を紹介]

HP http://kyodokodo.jp/100618_info.html 【世界は今】

今、世界各国が進められている医療安全 (海外では「患者安全 (Patient Safety)」と呼ばれています) への取り組みを伝えます

第2回 第20回医療の質改善全国フォーラムの報告

Institute for Healthcare Improvement (IHI) 20th National Forum for Quality Improvement in Health Care International Attendee Meetingの報告

医療の質改善研究所の第20回医療の質改善全国フォーラムが12月8日から11日まで米国ナッシュビルにて行われました。

同フォーラムには全米の病院から5000人以上が参加したほか、世界40カ国から600人以上が参加して各国の医療安全の取り組みを交流する国際セッション—International Attendee Meeting: 12月8日(月)—も開かれました。

開会にあたって、D. パーウィック氏から各国の取り組みを奨励するメッセージが述べられました。同国際セッションについて報告します。

会議事項・発表	進行役
8:30 - 8:45 開会Welcome and Introductions	Laurel Simmons
8:45 - 9:10 Icebreaker	Helen Bevan
9:10 - 10:40 各国のキャンペーンの紹介	Goran Henriks and guest speakers

第20回医療の質改善全国フォーラムの報告



世界各国の医療安全/患者安全担当者から共同行動へのビデオメッセージ

病院・診療所など医療機関の皆さまへ ぜひ共同行動の「参加登録施設」に登録をお願いします

医療安全の向上に取り組む医療機関（病院と診療所、薬局、訪問看護ステーション）は施設単位で共同行動に参加登録できます。参加登録施設には目標を実現するためのさまざまなツール・情報・アドバイスなどを提供し、具体的な取り組みを支援します。※詳細はHPのメニュー「共同行動の概要」をご覧ください。

参加登録施設のおもな特典

●“ねっとフォーラム”の利用

“ねっとフォーラム”とは

参加登録施設同士で安全向上をめざす活動の経験や意見を交換したり、専門家、医療関連学会や団体の専門的な助言を得られるようにするためのインターネット上の「ひろば（フォーラム）」です。率直な経験交流・意見交換を可能にするために、公開ではなく医療従事者限定としています。

★メールマガジン「ねっとフォーラム・マガジン」を配信します（病院は1施設10名まで、診療所は1名）

毎月1回、アドバイザーによる目標達成に向けたアドバイス、安全管理者による活動事例、病院長によるリーダーシップと医療安全の連載コラム、連載セミナー、イベント情報等を配信します。

★メーリングリスト（ねっとフォーラムML）に参加できます（メールマガジン受信者のうちの希望者）

ML参加メンバー間の情報交換、意見交換のほか、支援チームのアドバイザーに助言を求めることができます。

★ねっとフォーラム専用ページを閲覧できます

メールマガジンやメーリングリストと連動した記事、フォーラムやシンポジウムの記録、事例紹介や活動報告、ねっとフォーラム利用施設の活動を支援するための情報やデジタルツールなどを提供します。“ねっとフォーラム”利用施設のスタッフはどなたでも閲覧できます。

●自施設のページが開設され、取り組み状況等を入力できる

参加登録施設ごとに自施設のページで目標別対策実施進捗状況の自己評価、入院死亡数などを定期入力できます（任意）。データはグラフ化してフィードバックされます。

- お知らせメールの受信
- 講師の紹介・派遣
- 共同行動のバナーやロゴマークの使用
- 参加登録証の発行（病院向けA3判、診療所向けA4判）
- フォーラムやセミナー等の割引

■年間登録費用（4月～翌3月）

〈病院〉A.ねっとフォーラムを利用する：4万円(200床以上)／2万円(200床未満)（いずれも参加登録証発行費用を含む）

B.ねっとフォーラムを利用しない：無料（参加登録証発行を希望する場合は発行費用8千円）

〈診療所〉1万円（参加登録証の発行費用を含む。都道府県の医師会、歯科医師会、看護協会、薬剤師会に所属する診療所、薬局、訪問看護ステーションは割引適用）

■参加登録方法

共同行動HPのメニュー「参加登録（新規／継続）」(https://kyodokodo.jp/new_entry/)の画面からお手続きください。年度途中でも登録できます。



参加登録証

貴施設内に掲示していただけます

参加登録施設

〔病院〕

北見赤十字病院／旭川赤十字病院／禎心会病院／JA北海道厚生連遠軽厚生病院／釧路赤十字病院／日鋼記念病院／北海道病院／札幌徳洲会病院／勤医協中央病院／宮の森記念病院／医療法人整友会弘前記念病院／十和田市立中央病院／健生病院／社団医療法人啓愛会宝陽病院／みやぎ県南中核病院／独立行政法人国立病院機構仙台医療センター／仙台市立病院／東北労災病院／市立秋田総合病院／秋田緑ヶ丘病院／秋田県立脳血管研究センター／山形市立病院済生館／鶴岡市立荘内病院／山形県立新庄病院／三友堂病院／公立置賜総合病院／米沢市立病院／山形県立中央病院／篠田総合病院／いわき市立総合磐城共立病院／竹田総合病院／福島県立医科大学附属病院／福島赤十字病院／太田総合病院附属太田西ノ内病院／脳神経疾患研究所附属総合南東北病院／福島県立医科大学会津医療センター附属病院／東京医科大学茨城医療センター／つくばセントラル病院／自治医科大学附属病院／那須赤十字病院／獨協医科大学病院／栃木県済生会宇都宮病院／埼玉協同病院／自治医科大学附属さいたま医療センター／春日部市立病院／埼玉県総合リハビリテーションセンター／川口工業総合病院／東大宮総合病院／獨協医科大学越谷病院／千葉メディカルセンター／東邦大学医療センター佐倉病院／千葉市立海浜病院／成田赤十字病院／四街道徳洲会病院／津田沼中央総合病院／虎の門病院／武蔵野赤十字病院／立川相互病院／東京北医療センター／東京衛生病院／社会福祉法人康和会久我山病院／東邦大学医療センター大森病院／東大和病院／京浜病院／練馬光が丘病院／国立国際医療研究センター病院／横須賀市立市民病院／神奈川県厚生連伊勢原協同病院／神奈川県立足柄上病院／北里大学病院／新横浜リハビリテーション病院／恩賜財団済生会横浜市南部病院／国家公務員共済組合連合会平塚共済病院／厚木市立病院／高田中央病院／茅ヶ崎市立病院／横浜甞生病院／新潟県立六日町病院／済生会新潟第二病院／富山県立中央病院／かみいち総合病院／金沢赤十字病院／福井県済生会病院／福井赤十字病院／諏訪赤十字病院／JA長野厚生連佐久総合病院／長野赤十字病院／組合立 諏訪中央病院／佐久市立国保浅間総合病院／松本市立病院／松波総合病院／羽島市民病院／高山赤十字病院／医療法人社団盛翔会浜松北病院／浜松医療センター／浜松赤十字病院／市立島田市民病院／JA静岡厚生連静岡厚生病院／富士宮市立病院／社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷三方原病院／静岡県立総合病院

医療を支える団体、学会、企業、個人の皆さまへ ぜひ「会員」として事業の推進にご協力をお願いします

正会員

団体または学会は正会員として会費を納入していただくことにより共同行動社員総会に出席し、役員の選任や事業内容等の重要な意思決定に加わることができます。また、共同行動の成果物、ねっとフォーラム（専用ホームページやメールマガジン）等の利用ができ、全国フォーラム、シンポジウム等に会員割引にて参加できます。現在発起6団体をはじめとして64の団体に加入いただいています。

■年会費 団体、学会：1口 5万円（1口以上）

賛助会員

賛助会員は団体、企業、個人が共同行動の事業を賛助するために入会していただくものです。賛助会員は共同行動のホームページやパンフレット等に名称を掲載いたします。全国フォーラム、シンポジウム等に会員割引にて参加できます。

■年会費 団体、企業：1口 10万円（1口以上）
個人：1口 2万円（1口以上）

入会のお願い

共同行動の事業は定款により、患者さんの安全を守り、患者さんと医療者が安心して治療に専念できる環境作りを目的として活動しています。こうした事業活動はおもに会費と寄付金収入によって運営されております。今後の事業の継続、発展には会費収入が不可欠であり、皆さまの入会をぜひともお願いいたします。

■申込方法 事務局 (secretariatpartners@kyodokodo.jp)へ入会申込書をご請求ください。

※詳細はHPのメニュー「共同行動の概要」をご覧ください。

正会員・賛助会員

[正会員]

医療の質・安全学会／日本医師会／日本歯科医師会／日本看護協会／日本薬剤師会／日本臨床工学技士会／日本慢性期医療協会／日本診療放射線技師会／全国国立病院療養所放射線技師会／日本臨床衛生検査技師会／日本看護系学会協議会／日本麻酔科学会／日本感染症学会／日本化学療法学会／日本癌治療学会／日本医学放射線学会／日本形成外科学会／日本小児神経学会／日本高血圧学会／日本脳神経血管内治療学会／日本臨床検査医学会／日本透析医学会／日本呼吸療法医学会／日本臨床救急医学会／日本乳癌学会／日本臨床外科学会／日本放射線技術学会／全国国立大学放射線技師会／日本歯科衛生士会／日本プライマリ・ケア連合学会／医療のTQM推進協議会／日本医学シミュレーション学会／日本集中治療医学会／日本赤十字社／青森県医師会／岩手県医師会／茨城県医師会／石川県医師会／広島県医師会／福岡県医師会／佐賀県医師会／長崎県医師会／大分県医師会／沖縄県医師会／北海道歯科医師会／栃木県歯科医師会／神奈川県歯科医師会／石川県歯科医師会／山梨県歯科医師会／滋賀県歯科医師会／京都府歯科医師会／大阪府歯科医師会／兵庫県歯科医師会／奈良県歯科医師会／和歌山県歯科医師会／広島県歯科医師会／岩手県看護協会／宮城県看護協会／千葉県看護協会／群馬県薬剤師会／福岡県薬剤師会／京都府臨床工学技士会／静岡県病院協会／滋賀県病院協会

[賛助会員]

エーザイ株式会社

※順不同 2014年11月現在

／地方独立行政法人静岡県立病院静岡県立こころの医療センター／静岡市立静岡病院／公益社団法人地域医療振興協会伊東市民病院／菊川市立総合病院／共立蒲原総合病院／沼津市立病院／静岡リハビリテーション病院／名古屋共立病院／厚生連海南病院／名古屋第二赤十字病院／愛知県がんセンター中央病院／中京病院／愛知医科大学病院／名古屋大学医学部附属病院／藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院／トヨタ記念病院／総合大雄会病院／医療法人豊田会刈谷豊田総合病院／名古屋記念病院／名古屋市立大学病院／豊川市民病院／長浜赤十字病院／野洲病院／京都民医連中央病院／京都大学医学部附属病院／公立大学法人京都府立医科大学附属病院／舞鶴赤十字病院／京都市立病院／京都医療センター／綾部市立病院／医療法人社団洛和会洛和会音羽記念病院／大東中央病院／附属枚方病院／松下記念病院／附属西淀病院／阪南中央病院／大阪府立成人病センター／宗教法人在日本南プレスビテリアンミッション淀川キリスト教病院／大阪脳神経外科病院／大阪府済生会中津病院／大阪市立総合医療センター／市立枚方市民病院／高槻赤十字病院／神戸市立医療センター西市民病院／姫路赤十字病院／宝塚市立病院／西宮協立脳神経外科病院／六甲アイランド甲南病院／神戸市立医療センター中央市民病院／西宮市立中央病院／三田市民病院／奈良県立医科大学附属病院／近畿大学医学部奈良病院／日本赤十字社和歌山医療センター／鳥取生協病院／松江生協病院／岡山済生会総合病院／津山中央病院／岡山市久米南町組立国民健康保険福渡病院／広島赤十字・原爆病院／寺岡記念病院／総合病院三原赤十字病院／国家公務員共済組合連合会広島記念病院／独立行政法人国立病院機構広島西医療センター／岩国市医療センター医師会病院／山口県済生会下関総合病院／川島病院／徳島市民病院／香川県立中央病院／内科・消化器科羽鳥病院／松山赤十字病院／愛媛大学医学部附属病院／高知県・高知市病院企業団高知医療センター／九州病院／社会医療法人製鉄記念八幡病院／聖マリア病院／健和会大手町病院／九州労災病院門司メディカルセンター／社会保険大牟田天領病院／医療法人清和会長田病院／織田病院／恩賜財団済生会唐津病院／医療法人医理会柿添病院／日本赤十字社長崎原爆病院／上戸町病院／湯布院病院／高宮病院／鹿児島大学医学部歯学部附属病院／沖縄県立南部医療センター・こども医療センター／沖縄県立中部病院／医療法人一灯の会沖縄中央病院

[診療所]

わかまつ呼吸器内科クリニック／七条診療所／門司港腎クリニック

※都道府県順 2014年11月現在

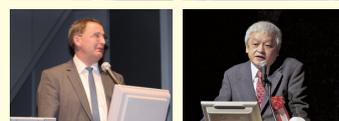
医療安全全国共同行動のあゆみ

第1期 2008～2010

- 2008年
- 5月 医療の質・安全学会、日本病院団体協議会、日本医師会、日本歯科医師会、日本看護協会、日本病院薬剤師会、日本臨床工学技士会の呼びかけにより、医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”発足。日本経団連会館にてキックオフ・フォーラム開催。
 - 7～9月 近畿、北九州、東北で地域のキックオフ・フォーラム開催。
 - 11月 全国フォーラムを東京ビッグサイトにて開催。特別講演：W・A・コンウェイ医師（ハンリーフォード病院診療部長兼質改善委員長）「“10万人の命を救え”キャンペーンが実現したこと」
- 2009年
- 5月 全国フォーラムを日本教育会館にて開催。特別公演：ブライアン・ジャーマン卿（ロンドン大学名誉教授、前英国医師会長）「英国における改善の指標－標準化病院死亡比の活用ほか」
 - 6～11月 静岡、宮城、神奈川、岩手にて地域フォーラム開催。
 - 11月 全国フォーラムを東京ビッグサイトにて開催。特別講演：ギュンター・ヨーニッツ氏（ベルリン医師自治機構会長、ドイツ連邦医師会質保証委員長）「欧州におけるPatient Safety（患者安全）の取組み」
- 2010年
- 2～11月 沖縄、東京、鹿児島、宮城、石川、静岡、岩手にて地域フォーラム／シンポジウム開催。
 - 5月 共同行動2周年記念フォーラムをベルサール九段にて開催。
 - 11月 全国フォーラムを幕張メッセ国際会議場にて開催。特別公演：李啓充氏（コラムニスト、元ハーバード大学医学部助教授）「患者安全の昨日・今日・明日－非難から改善へ」



医療安全全国フォーラム（2008年）



左上 W・A・コンウェイ医師（2008年）
右上 ブライアン・ジャーマン卿（2009年）
左下 ギュンター・ヨーニッツ氏（2009年）
左上 李啓充氏（2010年）



医療安全全国フォーラム（2010年）



肺塞栓予防国際フォーラム
in Kyoto（2011年）



全国フォーラム（2013年）

第2期 2011～2012

- 2011年
- 7月 英国との共催による肺塞栓予防国際フォーラムを京都にて開催。
 - 10～11月 静岡にて地域フォーラム／シンポジウム開催。
 - 11月 全国フォーラムを日本医師会館にて開催。
- 2012年
- 4月 医療安全ワークショップを京都にて開催。
 - 10～11月 静岡、岩手、山形で地域フォーラム／シンポジウムを開催。
 - 11月 医療安全全国フォーラムを大宮ソニックシティにて開催。

新たなステージへ 2013～

- 2013年
- 5月 一般社団法人 医療安全全国共同行動設立。
 - 6月 記念シンポジウム「医療安全は新たなステージへ」をイイノカンファレンスセンターにて開催。特別講演：エバ・エストゥリング氏（スエーデン自治体協議会医療福祉部門患者安全担当部長）「非難から改善へ－患者安全のためのスエーデンの取組み」
 - 11月 全国フォーラムをイイノホールにて開催。
- 2014年
- 6月 キックオフセミナー 2014を国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催。
 - 11月 医療安全全国フォーラムを幕張メッセ国際会議場にて開催。特別公演：ドン・ゴールドマン博士（IHIチーフ・メディカル&サイエンティフィック・オフィサー）「患者安全のたどってきた道」

【地域推進拠点】を募集しています

貴地域での地域推進拠点として、共同行動の推進にご協力いただける県等地域団体、基幹病院を募集しています。県や近隣複数県を単位（地域）とし、地域の主要団体と医療機関を繋いで、9目標の実現をめざす取り組みを交流する場（地域フォーラム）や研修機会（地域セミナー等）を企画し開催の労をとっていただける、県・地域の医療団体または中核的医療機関の役割を担っていただける団体は共同行動事務局までお知らせください。

一般社団法人 医療安全全国共同行動

議長 高久 史磨